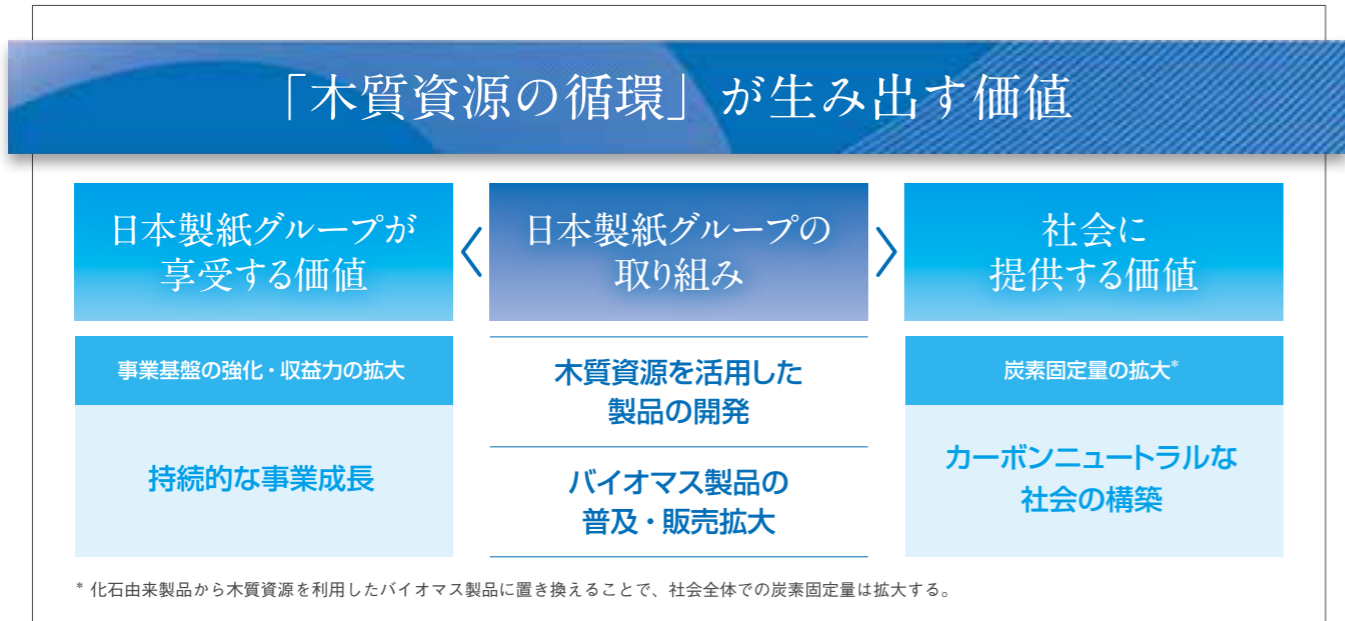
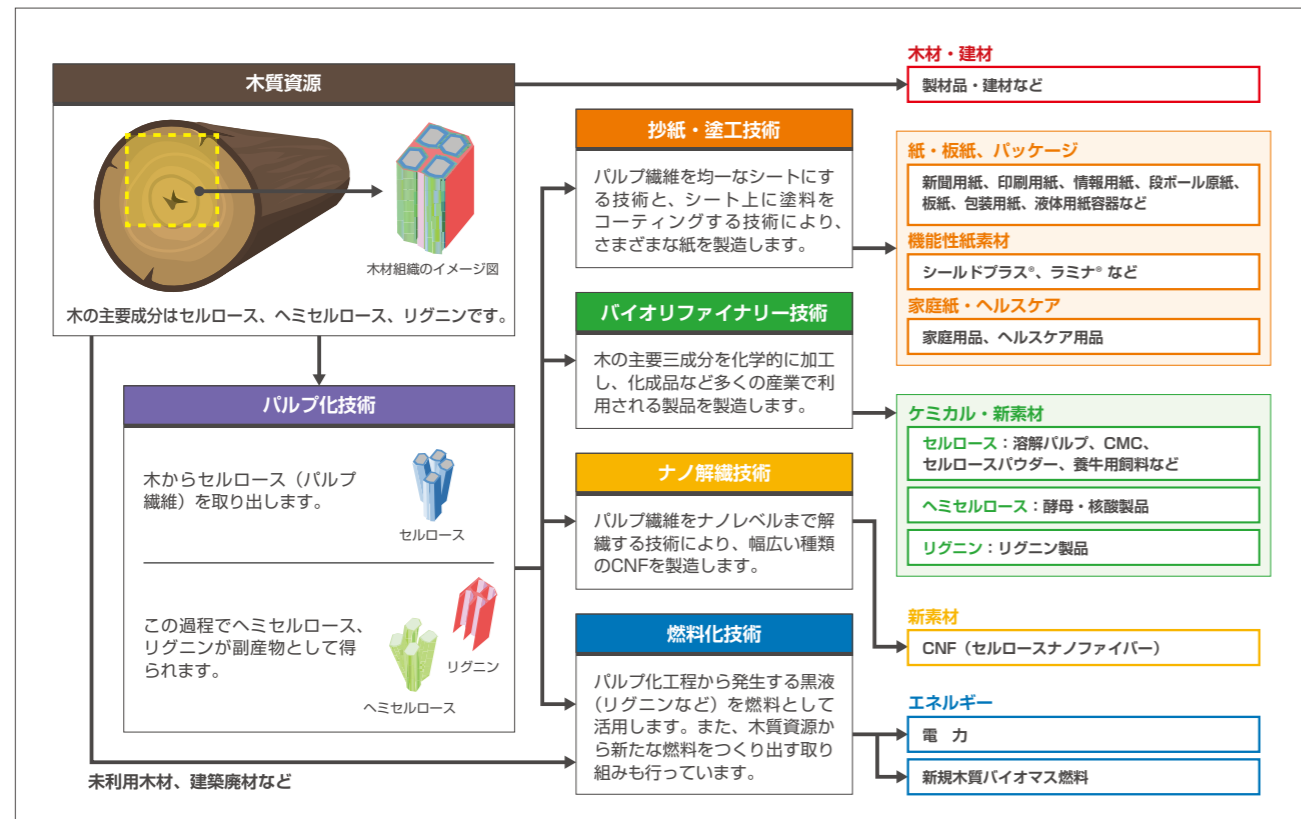


木質資源を最大活用する確かな技術力で循環型社会の構築を実現する製品を生み出す

日本製紙グループは、パルプ化技術をはじめとする幅広い技術・ノウハウの蓄積をもとに、再生可能な木質資源を多段階で活用する事業の展開を進めています。「木とともに未来を拓く総合バイオマス企業」として、木質資源から生み出す製品・サービスの提供拡大を通じて、収益力の強化を図るとともに、カーボンニュートラルな社会の構築に貢献していきます。



木質資源を最大活用する技術から生み出される製品・サービス



バイオマス製品の開発・販売拡大

当社グループは、紙にとどまらず、木質資源を原料とする多様なバイオマス製品の開発を進めています。社会に広くバイオマス製品が普及し、販売が拡大できれば、それらの製品の使用を通じて炭素固定につなげることができることから、技術力を活かした事業の成長とともに、カーボンニュートラルな社会の構築への貢献を目指します。

環境配慮型紙容器の販売拡大(School POP®)

世界的な脱プラスチックの潮流の中、ストローレス学乳容器 School POP® の販売が加速しています。従来の充填機にも対応し、開封しやすさ・飲みやすさの機能が向上した当製品は、2020年6月の開発以降、高知県での採用を皮切りに、2022年4月時点では13都県・170超の市区町村に採用が拡大しています。国内の学校給食牛乳では、年間で約14億個の紙容器が使用されていますが、2022年度は年間2億個以上の School POP® の供給が見込まれ、全体の15%がカバーされます。ストロー1本を0.5gとして計算した場合、約100トンの使い捨てプラスチックを削減でき、学校

教育の場で環境意識の醸成に資する点も評価されています。2022年より3拠点で生産を開始し、全国に供給可能な体制を確立することで、さらなる販売拡大を目指していきます。



School POP® の普及によるストローレス給食地域の拡大

CNF(セルロースナノファイバー)の事業化加速

当社はパルプをナノ化したCNFの用途開発を進めています。量産を開始しているTEMPO酸化CNFとCM化CNFは、採用件数増加に向けてラインアップの拡充や新機能の開発に継続して取り組んでいます。CM化CNFを生産する江津工場の設備は、食品や化粧品用途を中心とした採用実績の拡大でフル稼働を実現する見込みであり、当社独自のCNF事業としての展開が本格化します。CNF強化樹脂は、技術開発とサンプルワークを推進し、早期の採用を目指します。用途開発では、2021年に東北大学との共同研究の成果により、CNFに蓄電性を発見しました。その後、学術試験以外では世界初となるLED点灯検証に成功し、2025年大阪・

関西万博でのプロトタイプ展示を目指しています。今後も社内外との連携強化により、早期事業化への取り組みを加速していきます。



養牛用飼料の開発(元気森森®)

当社が培ってきたパルプ化技術を駆使して、木質資源から養牛用飼料を開発しました。木材の脱リグニン処理により高純度・高品質のセルロースだけを抽出することで、安定した品質を得ることができ、消化しやすく効率的なエネルギー源となります。国内で製造し、年間を通じて供給できる点も強みです。また、乳牛の乳量

増加、繁殖成績の向上に加え、肥育牛の健康増進効果も確認されています。このような強みや効果を訴求し、牧場での採用増加に向けて取り組んでいきます。元気森森®

